

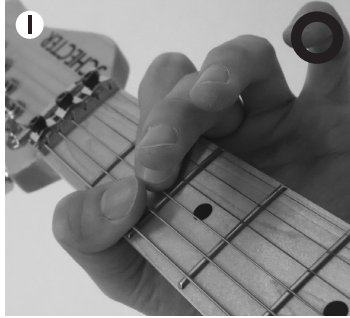
注意点1



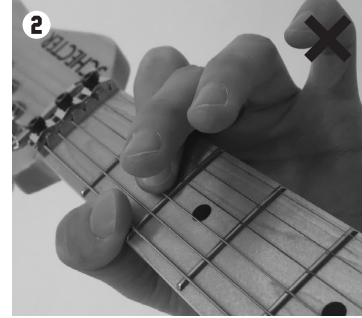
左手

ネックを深く握り込んで
親指で5弦をミュート!

このメイン・フレーズは、6弦のルート音を親指で押弦する【註】ハード・ロック系リフ・エクササイズになっている。まずは、このフレーズを弾くための基本となる左手親指の使い方について解説しよう。親指は6弦のルート音を押弦すると同時に5弦のミュートも行なうので、ネックを深く握り込むように心掛けると良い(写真①)。ネックの握りが浅いと、5弦をミュートできず、コードを弾いた時にノイズが発生しやすくなるので注意すること(写真②)。手の平をネックに密着させると、ネックをしっかり握り込めないで、親指と人差指の付け根を支点にして、手の平とネックの間に少し隙間ができるように握ろう。



親指と人差指を使って、ネックをしっかり握り込む。親指の先端から腹部分で5弦をミュートしよう!



ネックの握り込みが浅いと、5弦のミュートが甘くなる。これではノイズが発生してしまうのだ!

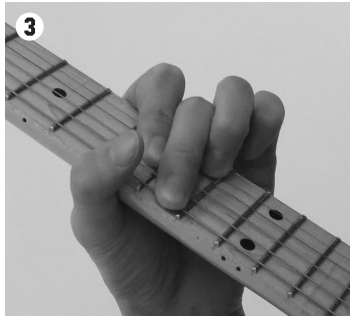
注意点2



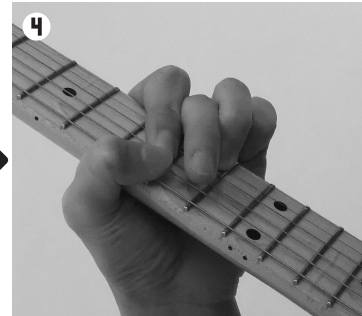
左手

6弦ルート音の押弦指を
中指→親指に的確にチェンジ

メイン・フレーズ3～4小節目に登場する6弦(ルート音)上での左手的中指から親指への移動には注意が必要だ(写真③&④)。ここでは、3小節目の中指による押弦時にネックをしっかりと握り込んで、9フレット上に親指を待機させておくと、スムーズなフィンガリングになる。また、4～2弦のコードは人差指を中心に押弦するため、中指から親指へチェンジする際に人差指の位置がズレないように気をつけよう。ギターのネックは、ハイ・ポジションに行くほど太くなるので、9フレットを深く握り込むのはなかなか大変だ。そのため親指の第1関節をしっかり曲げて、6弦を的確に押さえよう。同時に5弦のミュートもキッチリ行なうべし!



3小節目の中指による6弦の押弦時。ネックを握り込んで、9f上に親指を待機させよう。



4小節目ではルート音を親指で押さえる。人差指を軸にして、中指→親指にスムーズにチェンジすること!

注意点3



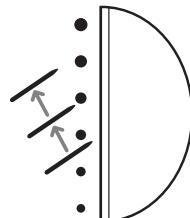
右手

アップ・ピッキングは
エグるように弾こう!

メイン・フレーズは、ブリッジ・ミュートを掛けたルート音とノン・ミュートのコードをオルタネイトで弾き分けるため、右手の動きがやや複雑になる。特にコードは、すべてアップ・ピッキングで弾くので注意しよう。ここでアップ・ピッキングを直線的な動きで行なうと、複数弦を同時に鳴らしづらいので、少しエグるような感覚で曲線的な動きになるように弾いてみてほしい(図1)。ピックを持つ力を少し緩めて、ピックをしなせるように弾いてみるとウマくいくだろう。慣れるまでは1小節目1拍目だけを抜き出して、何度もくり返し練習してみると良い。

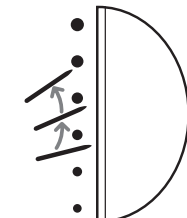
図1 アップ・ピッキングの軌道

× 直線的な軌道



直線的にアップすると複数弦を的確に鳴らせない。

○ 曲線的な軌道



少しエグるような感覚でアップ・ピッキングを弾こう!

【6弦のルート音を親指で押弦する】ブルースを土台にしたロック・ギタリストは、リフだけでなく、ハイ・コードも左手の親指を使って押さえることが多い。ネックを深く握り込むことで、フィンガリングが安定するようだ。